

豪華執筆陣による秘封倶楽部のレイプ～奴隷堕ち集
数多の形で台無しにされ穢されていく2人の輝く将来



秘封レイプ脅迫調教
人生強制終了合同
未来自望の美人JDたちの快樂堕ち人生車落記

最高クラスの美貌と知性を
兼ね備えた秘封倶楽部の二人。
二人には輝ける未来がある。
……そのはずだった。

彼女達の肉体を狙う悪人に運悪く目をつけられ
強姦されて人生を躓いてしまう。

悲劇はそれで終わりではない。強姦をネタに
脅迫され、調教を受け、彼女達の未来ある人生は
グチャグチャになりついには暗転してしまう。

輝けるはずの未来をもつ三人の人生が悪人の
理不尽な悪意で躓かされ、穢され、ついには未来
を捨てさせられ、男の快樂のために消費される
惨めな末路に墮とされる。

風俗、AV女優、性奴隷

シャブ漬け 依存症 日常復帰すら不可能
女としての人生のどん底まで堕ちてゆく

秘封の2人の男の悪意による強姦が契機の
様々な人生強制終了までの転落と結末を描く
各作家のリビドーあふれる合同アンソロジー

複数の世界線で人生を壊され
最底辺までも堕ちていく2人

類まれなる美しい美貌と眩い才能
約束されたはずの二人の未来
悪人達によって台無しにされ
性欲処理の消耗品に堕ちていく

秘封レイプ脅迫調教 目次

人生強制終了合同





総勢 8 名
豪華作家による
テーマに沿った
リビドー全開の
イラストに
テキストがついた
合同アンソロジー



無人廃墟での陵辱。相棒からの連絡。罨に嵌められた蓮子。

蓮子が所属する西京都大学の隣県山間部にあるコンクリ製の大規模廃墟。薄暗く埃臭い廃墟に、蓮子はいた。

理由は携帯端末に届いた相棒からの連絡だった。次回の探索候補の一つでもあった廃墟に今いて、助けに来て欲しいという。

当然不審に思いはした。だが蓮子は廃墟に向かった。最近大学にも姿を見せず音信不通状態の相棒。この機会を逃せば二度と会えない強い予感がしたのだ。蓮子はメリーの名を呼びながら暗い廃墟を頼りないライトの明かりを頼りに探索していく。

いつもメリーがそばにいたから一人の探索は久しぶりだ。思考が過去の思い出に傾いた時、蓮子の後頭部に痛みが走った。

廢墟の埃臭い一室。明らかに最近持ち込まれたカビ臭いマットレスと煙草やゴミが散乱した部屋に、悲痛な女の悲鳴が響く。「えぎっ、ぎいっ！　があああっ！　痛いっ、いだいいいっ！　やだっ、誰かつ、誰か助けっ、がっ、おがああ、あああ！」この女子大生が生涯で今まで守ってきた純潔。それを失った証の破瓜血が白い太ももを伝って垂れ落ちていく。

蓮子を背後から押さえつけた男が力任せに固い膣肉を掘削するたび、想像を絶する痛みが蓮子に襲いかかった。

痛い。怖い。メリーは一体どこに。こいつらは何者なのか。許せない。負けるものか。誰か助けて。絶対に警察に突き出してやる。そんな思いが後頭部の鈍痛で曇った蓮子の頭脳の中で渦巻き、未開拓の膣穴を抉られる痛みでグチャグチャにされる。

「うおおおっ、新品マンコの締まりたまんねえっ！　ぐううう、ナカっ！　膣内出しするからザーメン全部受け止めろやっ！」

背後で男が叫ぶ。蓮子を処女強姦したばかりか膣内に射精するという。妊娠という最悪のリスクが蓮子の脳裏をよぎる。

強姦魔の子を孕むという女にとって最悪の屈辱。その意味を悟った蓮子は必死に抵抗しようとするが男の力は圧倒的で逃れることなど到底無理に思えた。なおも必死にもがく蓮子の中で肉棒が熱を持ち膨らむ。蓮子が覚悟を決める余裕もなかった。

オオツと男が声を上げた瞬間。熱いというぼんやりとした感触だけが最初にあった。だが蓮子のプランク並の伶俐な頭脳は全てを察した。グツグツと煮えたぎった欲望の濃厚雄汁スープがどぶどぶと、膣内にたっぷりとぶちまけられたのだ。

生で射精された。妊娠してしまふ。こんな男の子供を。絶望の黒いシミが蓮子の心の中で広がっていく。蓮子の目尻には涙が浮かんでいた。ふうーっ、と満足げに息を吐くと男がようやく離れた。蓮子の背中に残る男の体温の残滓が気持ち悪い。

こんな奴に負けたくない。蓮子はどうにか自分を勇気づけ奮い立たせようとした瞬間、尻に別の硬いものが押し当てられた。

「へへっ、次は俺だあ。蓮子ちゃんだっけ？ 元新品のまんこ穴に俺のちんぼの味も教えてやるから、おめエも感謝しろよお」

引き攣った顔で蓮子は肩越しに後ろを見る。不潔そうな長髪の肥えた男がいた。部屋が暗く気づかなかったが他にも4人ほどの男がいた。絶望に視界がぐらりと揺れた気がした。

蓮子は男に後ろから貫かれながら、悔しそうに喘いでいる。せめて反応など返すものか。彼女の反抗心がそのように抵抗していた。だがどうしても口からは悲鳴やうめき声が出るのだ。

早く終わってほしい。それだけが蓮子の心を占めていた。肉体はまた別で口からは喘ぎ声や呻き声、悲鳴が漏れてしまおうがもうどうしてもよかった。口の中が男の精液や肉棒の味、ヤニ臭い唾液の味で気持ち悪い。思う存分うがいをしたかった。

痛みと男への嫌悪感と悲しみと絶望。それだけが蓮子の心を占め続け責め苛んでいた。どうか一刻も早く終わりますように。死んだ目で蓮子はそう神に祈った。廃墟の陵辱は夜まで続いた。

終わらない陵辱。ホテルで集団輪姦された女、蓮子

男たちは陽が落ちるまで蓮子を弄んだあと、車で廃墟を後にした。悪夢のような時間だったがこれで解放される、蓮子はその自身の考えの甘さにすぐに気付かされた。移動した先はラブホテルの大部屋で、さらに何人もの男たちが合流したからだ。

「おいしい、もっと気合い入れてオナホ穴を締めろや！ お前の価値はその穴しかねエのに、まったくユルマンの便器女がよお！」

蓮子を下から貫く男がすでに真っ赤に腫れあがった蓮子の尻を思い切り平手で引っ叩いた。激痛のはずだが蓮子の反応は鈍い。数時間ぶっ続けの陵辱で彼女の体力は限界だった。

「おや、お疲れかな？　じゃあもう一回おクスリ追加しよっか」

蓮子の尻穴を責める男が蓮子に上を向かせる。男は舌を使って蓮子の口腔内に錠剤を押し込み、ためた唾液を流し込んだ。

「うえっ、そんな精液くさい女の口、俺なら気持ち悪くて絶対キスとかしたくねえよ。何回しゃぶらせたか分かんねエだろ」

男は生意気な女に唾や痰を飲ませるのがいいんだと返した。

昨日の昼過ぎに廃墟で男達に襲われ、そのあとホテルで一晩中休みなく犯され続けた。蓮子を貪る男たちは自分の番以外は休憩できるが、蓮子には全く休みがない。意志を踏み躪られ、肉体を穢される。そんな屈辱が際限なく続いている。

すでに外は日が高く昇っている。輪姦を始めてからもう1日以上経っていたかもしれぬ。蓮子の反応が鈍くなるたび、古い機械に油を差す程度で感覚で男たちは「クスリ」を蓮子に飲ませた。

肉穴を耕す際に蓮子の反応が良くなるからだ。

今や蓮子は性的刺激に反応を返すだけの肉人形だ。蓮子の口から出る声は意味をなさぬ濁った声ばかりで彼女が正気か窺えなかつた。それでも男達が陵辱の手を緩めないのは「どこまでなら女は壊れないのか」を、多数の経験から知っているからだ。

クスリの効果が蓮子の全身に回り始めたようだ。疲弊し尽くした肉体が疲れを一時的に忘れたことで、再び肉穴が情熱的に肉棒を味わいはじめる。最初の頃のギチギチとした締め上げはないが、蓮子の肉壺はゆるく包むようにして男を味わっている。

「オッ、蓮子ちゃんクスリ好きすぎっしょ。まんこが美味そうにちんぽを締め始めたわ。もう完全にキメセク中毒じゃん」

男が蓮子を嘲る。男の言葉はカメラに向けられていた。

この輪姦の一部始終はすべて動画に録られている。キメセク快楽に乱れイキ狂う蓮子の動画を見た者はこれを強姦と思わないだろう。動画には脅迫以外に保険の意味合いもあった。

「このキメセク狂いの淫乱が！！　思いつきり二穴をズコズコしてやるからアへ顔晒して派手にイけ！　イけよオラっ！」

尻を責める男が蓮子の髪を乱暴に掴み顔をカメラに向けさせると抽送を加速させる。すでに快樂の歯止めが効かなくなっていた蓮子は甘い声とトロけたただらしのない顔をカメラの前で晒している。男性経験のない蓮子にクスリで増幅された快樂を制御する術があるはずもない。あっさりと絶頂に上り詰める、

男達二人が精液を両穴にぶちまけるのに合わせて、カメラの前でイグイグと絶叫しながら絶頂の大波に飲まれた。

大量のザーメンを吐き出して満足した男達が離れると次の男達が蓮子に群がる。今度は3人だ。絶頂の余韻に浸る間もなく、蓮子は男達の欲望のはけ口として酷使され続けた。

無限に続くかに思えた陵辱もついに終わった。男達の精力にも限りはある。陵辱に飽きると男達は蓮子を置いて立ち去った。

蓮子はぐったりと床に倒れ伏している。周囲に乱雑に散らばった酒缶の数が彼女がどれほど長く犯されていたかを物語っている。昨日までの大学の高嶺の花は、今やチンピラたちに弱みを握られ言いなり奴隷に堕ちた。彼女の転落はまだ序章だ。

ホテルでの輪姦。度重なる調教に屈した蓮子の肉体、心も：

「おーっし、精液まみれのボロ雑巾がだいぶ綺麗になつたな。ザーメン漬けの汚ねえ穴とか使う気にならねえからよ」

風呂の中で蓮子の体をまさぐりながら洗っていた男が笑つた。使い捨てオナホ同然の乱雑な扱い。何をしてもいい、言いなり奴隷の蓮子は男にとってその程度の存在だった。

数時間、常に男たちの輪姦漬けにされた蓮子にやつと与えられた休息。それがこの時間だ。抵抗する気も失せた精神とは裏腹に、絶頂と媚薬漬けにされた肉体は敏感に反応してしまふ。

「オラっ休みはもう終わりだ。続きしてやっからよ。肉奴隷らしくそこに手をついてブチ込みやすいようケツ突き出せや」

蓮子のはのろのろと立ち上がると男に言われるままに従つた。

逆らう気概は全くない。キメセクの暴力的で法外な快樂漬けにより、凜としたはずの蓮子の意志はグズグズに腐っていた。

男の砲身が蓮子の神聖な場所にずぶりと無遠慮に潜り込んできた。すっかりほぐれた蓮子の蜜肉は男のモノを情熱的にもてなし、男の律動は蓮子の背筋に甘い痺れで溶かしていく。

「ううっ、あっ、あああっ……。あひいい、気持ちいいのお♡」
力強い男の律動に蓮子は甘く媚びた声で啼いて応える。これまで数え切れぬ程蓮子は男達に呼び出され調教を受けてきた。

暴力的に屈服の歓びを叩き込まれ、快樂で躰けられたことで蓮子は男の命令にほぼ無条件で従うように成り果てていた。命令に反抗や疑問を感じる矜持は蓮子の心から、悪魔のようなえげつない調教の積み重ねによって全て削り落とされていた。

「あはっ、おチンポでハメられてえっ♪ 私っ、イっくうう♡」

蓮子は媚びた声で絶頂を告げた。いく時はそうしろと躡けられたのだ。蓮子の背筋が跳ね、ガクガクと痙攣し崩れかける。

「何勝手にイッてんだ！ 俺がいくまで穴あ必死に締めるやっ」
乾いた音が風呂場に響く。男が蓮子の尻を平手で張ったのだ。

だがその痛みは、蓮子をさらに快樂の高みに押し上げただけだった。蓮子に使われた悪魔のクスリはジンジンとした痛みすらも愛撫のような甘い心地よさに変換してしまう。

「叩かれていくとかマゾ変態かよ。上等だ、ハメ潰してやる」

男は嘲笑するとさらに蓮子への責めを激しくする。抽送の力強さに蓮子の頭がゴツゴツと壁にぶつかるが、男は気遣うどころかさらにスパンキングを激しく、ストロークを長くする。

激しい快樂と痛みが渾然一体となつた癡狂寸前の凶暴な喜悅に襲われて蓮子の腦は焼き切られていく。押し寄せる快樂の中でなお満たされぬ肉の渴きだけがさらに激しくなつていく。

「完全に淫乱の顔になつてきたじゃねえか。次は外でしてやろうか？ 見物人どもにもヤラせてよ。次の日にはネットに輪姦ハメ撮り動画が出回つてお前の人生本当に終わつちまうぜ？」

何気ない男の言葉が蓮子の頭にその光景を想起させた。

周囲を囲む無数の人ばかり。数えきれぬ男たちに囲まれて朝まで犯し潰される自分の姿。蓮子に飽きた男達は見物人の男達に好きにするよう言つて立ち去る。群がられる蓮子。

倒錯したマゾ願望により妄想が止めどなく暴走していく。

動画で自分の痴態が知れ渡る。道を歩いただけで正体が露見し

路地裏に引きずり込まれ、犯されるようになるのだ。

妄想が蓮子の快楽を加速させていく。破滅の予感によって被虐の快楽の炎は油をかけられたように燃え盛る。すでに限界のギリギリまで興奮していた肉体の興奮が精神的興奮によってさらに未体験の領域へと押し上げられる。ついに蓮子は今までにないほど激しく大きい絶頂を迎え甘く咆哮した。

「オイオイ、野外輪姦の想像で興奮しまくっていくとかお前さ本当に終わってんな！　こんな淫乱見たことねえよ！」

蓮子は絶頂の甘い余韻に包まれながら失神する寸前、次は本当に大勢集めて外でやろうぜ。そんな男の声を聞いた気がした。



睡眠姦。安全な寢室の無防備な眠り姫は、卑劣漢の性処理穴
ベッドで女が穏やかな寢息を立てている。ブロンドの髪は最上
級の絹布のようで高貴な印象を見る者に与えるだろう。

顔もまた美しい。天才彫刻家が全身全霊を傾けて彫り上げた美
貌は美の女神も嫉妬するレベルだった。大学で男たちの視線を集
める豊満な肢体を好きにしたい男は数えきれない。

この部屋の主人、メリーは今日は化粧だけ落とすとパジャマに
すら着替えずに寝てしまったようだ。メリーの性格には、本人の
完璧な美貌に似合わずひどく大雑把なところがあつた。

室内にはもう一人男がいた。蝦蟇のような醜い顔と中年のよう
に突き出た腹、一言で言えば冴えない醜男だ。到底メリーの美貌
とは釣り合わず、男の前で眠るほど気を許した間柄、と言っても

誰も信じないだろう。実際そうだ。不法侵入だった。

最初はメリーの鞆の目立つところにあつた家の鍵を男が見つけたのがきつかけだった。メリーはちょうど席を外していた。前々からメリーを狙っていた男は、鍵だけを素早く抜き取ると鍵屋で複製後オリジナルの鍵は拾得物として大学に届けた。

メリーの不在時に侵入し、部屋の小物を隠しカメラ入りの似たものとすり替えた男は、不眠症のメリーが就寝前に睡眠薬を飲む習慣があり、何をしようと朝まで起きない事実を知った。

遠隔カメラでメリーが寝付いたのを確認した男は、今日もメリーの部屋に合鍵で侵入したのだ。メリーが着替えていないことも好都合だ。大学で見かける姿のまま犯せるからだ。

「おおおっ！　濃いのが射精するよメリーちゃん！　孕んでっ！」

余裕のない声で男は叫ぶと、金髪美女のもっとも神聖な場所にびゆくびゆくと欲望のスープを思う存分ぶちまけた。尿道を大量の精液が駆け抜けていく感触に頭が焼けそうになる。

しばらく男はメリーにのしかかり、射精の余韻を堪能する。目覚めない眠り姫の豊かな胸を包むブラの硬い感触と若い女だけが出せる女体の良い香りが男の下半身を刺激した。

すぐさまむくむくと分身を大きくした男はふたたびメリーの上で腰を振り始める。横では三脚付きのビデオカメラが男のおぞましい種付け行為を録画している。第三者が見れば、肥えた豚が美女の上でへこへこと浅ましく腰を振りたくっているようにも見えらるだろう。醜い豚がメリーの唇に口を重ねた。

「あはあつ、メリーちゃんの唾美味しい。唇も柔らかいいい」

そう言うと男はメリーの顔に舌を這わせ始めた。鼻や瞼、顔中が悪臭を放つ唾液だらけになっていく。その行為に征服感を高めた男は再び下半身を煮えたてせた。男はメリーにしゃぶらせたかった。だがさすがにそれはバレると自制する。

「メリーちゃん、今度はベロチューしながら射精するからねっ！くううっ、舌温かくて、気持ちいい、射精るううう！」

メリーの唇に舌を割り込ませた男は、興奮のままに女の膣の一番奥に思い切り何度目かになる射精を叩きつけた。

メリーの肌を濡れたタオルで拭き取り痕跡を隠滅した男は、戦利品としてメリーのショーツを懐に突っ込んだ。今までの経験から

メリーが夜の大概のことは「薬で朦朧とした意識のせい」で済ませてしまうことは分かっていた。バレはしないだろう。

だが欲は増長し自制も緩む。男はメリーにフェラをさせたかった。しかし眠らせたままではさすがに起床時にバレるだろう。

それならメリーを言いなりにできればどうだ？ 悪魔の閃きを

男は得た。動画ならここにある。妊娠していればさらに上出来だ。なにしろ週に何度も膣内射精を繰り返しているのだから。

毎晩知らぬ間に種付けされていたという事実を突きつけられ、動画で脅迫された時、メリーはどんな顔をするだろう？

その妄想に、男は気色悪くニタリと笑った。



動画による脅迫。見知らぬ男に穢されていた眠り姫

メリーは男の前で驚愕の表情のまま固まっていた。

おそろくたつぷり1分はフリーズしていただろう。男が見せた

ものは結果の出た妊娠検査キットと動画が映る携帯だった。

画面の中で男は反応のない女に一心不乱に腰を振っていた。そ

こに映る寝具に見覚えがある。メリーの自室に間違いない。すな

わち動画の中で男が腰を振る相手はメリーだった。

男の顔をメリーも記憶している。大学ですれ違うたび、顔をそ

らしても常にじつとりとした視線で見つめてくる男だ。いつもニ

ヤニヤと笑う男。メリーの印象と好感度は最悪だった。

当然男の行為自体は犯罪だ。盗撮で強姦。だが男はメリーがお

となしく言うことを聞かなければ動画をネット上にはらまくとい

う。そんなことになればメリーは破滅だ。一生「あの睡眠姦動画の女」だとバレルリスクを抱えながら生きることになる。

科学世紀の発達した顔認識技術は整形でも誤魔化せない。

「な、なんで、どうして……。こんなの嘘、なぜこんな……。」

衝撃のあまりメリーは虚ろな言葉しか絞り出せなかった。

「賢いメリーちゃんなら、この動画でもう逃げられないのは分かるよね？　続きはもっと人目につかないところでしょうっか」

勝ち誇った男は、拒否できないメリーの手を掴み歩き始めた。

男が向かった先は意外にもメリーの自宅だった。男は慣れた手つきでドアを合鍵で開ける。靴を脱ぎ捨て、勝手知ったる他人の家という風にメリーの自室にずかずかと踏み込んでいく。

本来最も安全なはずの自室に強姦魔がいる。この男が自分に何

をするのか想像するだけで眩暈がする。目の前の現実が悪夢のようで、メリーはかろうじて気絶をこらえた……。

「ほらほら、もっと熱心にやってよ。自分の立場分かってる？」
メリーは豊かな胸を使った男への胸奉仕を命じられていた。

胸の間に感じる男の性器の熱と先走り汁の感覚が気持ち悪い。それでもパイズリ奉仕の手をメリーは緩める事はできない。この脅迫者の命令に逆らえば何をされるか分からないからだ。

「くうう、女子大生の爆乳パイズリたまんねえよ。してもらうのはやっぱり反応のない女相手に腰を振るのと全然違うわ」

今まで散々メリーを生オナホ扱いしてきた男の嬉しそうな言葉が彼女の心を曇らせた。やがてメリーが奉仕に少し慣れてきたこ

とも手伝い、蛙顔の男の興奮のボルテージが高まっていく。

「おおおっ！ 射精るぞお、逃げずに全部受け止めろやっ！」

男は欲望のままに叫ぶと勢いよく欲望のたぎりを解放した。

メリーが髪に熱を感じる。さらにどろおりとした最悪の感触に続き、えぐい匂いが彼女の鼻腔を蹂躪した。今までメリーが大切にしてきたサラサラの髪を精液がドロリと穢していく。

さらに男が砲身の向きを変えて顔射した。女の顔に白濁液が叩きつけられ欲望のザーメンマーキングされていく。メリーは顔を背けようとしたが男の視線を感じ、泣きそうになりながら自分から精液顔面パツクのために顔を差し出さなす。

やがて射精の勢いは衰えたが、射精は止まらず、どびゆりぶびゆりとメリーの胸の谷間に欲望の白濁が注ぎ込まれ続けた。

口で尿道に残った精液を綺麗にするよう命じられたメリーはのろのろと従った。肉棒の先からちゅうちゅうと吸いだす。

もう反抗する気概はことごとく摩滅し尽くしていた……。

「従順で偉いねえ。少しでも反抗してたら人生終わってたよ」

精液を最後の一滴までメリーに処理させた男は嗜虐的に笑う。

まあ逆らわなくても無駄だったんだけどねと男は言った。

精液まみれの顔を拭くメリーの頭は極度の精神疲労で鉛のように重く動かない。男の言葉を理解したくなかった。

そのとき外からドヤドヤという男たちの足音が聞こえてきた。はしゃぐ声と共に玄関の扉がガチャリと開く。



下着ぶっかけ。大量精液の異臭が少女の嗅覚と精神を穢す

「もういいの？ お邪魔しまーす。うわっ、女の子の部屋だ！」

玄関先から騒々しい男達の声が聞こえてきた。断りもなく、彼らはずかずかと無遠慮にメリーの部屋に入ってくる。

「えっ……。なんで……。こんなに人が……。どうして……」

大人数で押しかけられ、精液塗れのメリーは呆然と呟く。

「あれあれ？ もしかして俺とのパイズリ1回だけで終わりだと思っただ？ メリーちゃん、他の男たちにも大人気だからさ」

男はニタニタと笑う。最初から仲間を呼ぶつもりだったのだ。

「挿入はしないから大丈夫だよ。メリーちゃんがおとなしく言うことを聞く限りはね。ほら、さっさとパンツ下ろして」

メリーは拒絶しかけたが思い直す。今ここで断っても男数人相

手に力づくで輪姦されるだけだ。表向きはメリーに選択肢を見せているが、彼女が実際に取れる選択肢は1つしかない。

「おー、メリーちゃんの生まんこ、まだ綺麗じゃん！俺達も見抜きで我慢するからなんかシコれること言ってよ！」

肉棒を出した男達は彼女を凝視しながら勝手なことを言う。

メリーは蟻蛙の方を伺うと、彼は顎をしゃくった。拒否権はないと判断したメリーは屈辱に耐えながら男たちに従う。

「私の体を見ていただきありがとうございます。セックスを想像して、どうかいっぱい精液をビュルビュルしてください……」

しばらくは奇妙な沈黙と摩擦音だけが響いていた。男たちは黙り込んで鼻息荒く肉棒をシゴくだけだったからだ。

全身を舐め回す男たちの視線にメリーは居心地の悪さを感じる

が、今は耐えるしかないと自分に言い聞かせた。

やがて汁男たちの一人が手淫の動きを早める。男はメリーの胸を凝視しながら精液を吐き出した。そのほとんどがショーツに勢いよく降り注いでいく。やがて射精感の限界に達した男たちもそれに倣ってショーツ目掛けて次々と精液を発射した。

メリーは異臭を放つ自分のショーツを眺める。言いようのないおぞまじさをまず感じ、次に自分の秘穴を汚されなくてよかつたという安堵感が混じる。青臭い精臭で鼻が曲がりそうだ。

「よし、全員射精したね？　じゃあメリーちゃんはさ、そのパ
ンツ履いてよ。もう妊娠済みだから孕む心配ないよね」

男の命令にメリーは絶句した。大量の汚濁液が染み込んだものを履けと？　躊躇したが再び脅され屈するしかなかった。

べちゃりと生暖かい精液が秘裂に張り付く気色の悪い感触。膣口から侵入した数十億もの精子が孕ませる卵子を求めて先を争い自分の中を奥へと泳ぐ感触をメリーは感じた気がした。

「ううう……。いやっ、いやああ……。気持ち悪い……。想像を絶する嫌悪と屈辱に、メリーは大粒の涙をこぼす。

「じゃあブラウスも前は閉めて、今からホテルに移動しよっか」蛙顔の男の言葉はメリーをうちのめす。まだ続きがあるのか。

「あれあれ？ 拒否権とかあると思ってる？ 俺たちはここで無理矢理でもいいんだよ？ それにまだ他の仲間も来るしね」ホテルで男達に囲まれるなどその先に待つものは1つだ。

「あとこれからも俺達が連絡したら従ってね。無視や反抗したり警察に行ったら、メリーちゃんは一生『あの動画の女』と他人に

指差されて生きていくことになるから。それは嫌でしょ？」

虫を潰して遊ぶ少年の様な嗜虐の笑みで蟻蛙顔の男が笑う。

「あと、俺が許可するまで墮胎は禁止ね。呼び出したときは毎回検査薬で調べるから。墮ろしたかったら、分かるよね？」

メリーは青ざめる。妊娠期間のうち、墮胎不能になるまでの猶予はあと数週もない。もし私生児を産むことになれば自分の人生は破滅だ。従っても男達が本当に墮胎を許す保証はない。

メリーは自分の人生が男たちの気分次第の玩具になったことを悟る。反抗の気力の萎えたメリーは男達の命令に無抵抗で従い、翌朝までホテルで男たちに体を貪られ尽くされた……。